# 健康通信

～小牧市民病院より～

問合先　市民病院（☎76・4131）

## 病理診断科から細胞診検査を紹介します

臨床検査科
臨床検査技師・細胞検査士
山田　真美子

### 細胞診検査ってなに？

病理診断科の主な仕事は、病理組織検査、細胞診検査、病理解剖の三つあります。当院の病理診断科は、病理医、臨床検査技師七人（うち細胞検査士四人）で協力して業務を行っています。

病理組織検査は、内視鏡や手術などで患者さんの体から採取された病変の組織標本を作製し、これを病理医が顕微鏡で観察して、病理学的に診断を行う検査です。臨床検査技師はそのための標本作製を担当し、正しい診断を迅速に報告できるよう努力しています。

一方、今回紹介する細胞診検査は、子宮・喀痰・尿・体腔液といった検査材料から細胞診標本を作製し、顕微鏡で観察して細胞診断を行います。一般的に病理組織検査と比べると患者さんに対しての侵襲が少ないので、病理組織検査に先立って行われ、がんのスクリーニングに用いられます。

病院で行う検査以外では、市区町村の子宮癌検診や肺癌検診で、細胞診検査が行われることがあります。当院健診センターで採取した検体も私たちが検査しています。

### 出張細胞診検査をやっています

乳腺外科や耳鼻いんこう科の診察室などで穿刺吸引細胞診（腫瘍病変が疑われるところに細い針を刺して細胞を採取します）を実施する際、私たちが診療の場に出向き標本作製を行います。対象になるのは、乳腺腫瘍、リンパ節、唾液腺、甲状腺などです。細い針でも針の中には多くの細胞が採取され、顕微鏡で細胞の〝顔つき〟を観察し、さまざまな所見を組み合わせて良悪などの判定をします。

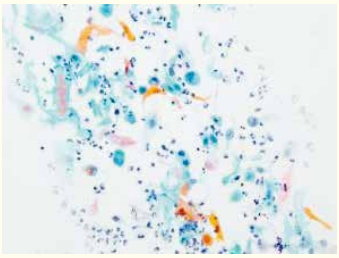
また呼吸器内科でEBUS（超音波気管支鏡で観察し、組織を採取します）検査の際には、内視鏡室で検査に立ち会い、標的組織が採取できているか捺印細胞診標本を作製し顕微鏡をみて、その場で確認します。診断精度があがるように、他部署と連携して業務にあたっています。

### 細胞検査士の仕事

細胞検査士とは、日本臨床細胞学会の認定資格を有した臨床検査技師です。学会や研修会への参加が義務づけられており、外部精度管理に参加するなどして〝細胞を判定する〟という精度を日々磨いています。

標本作製は、採取された検体をガラスに塗布し、細胞診用の染色液できれいに染めて完成します。顕微鏡でみるとそこにはとてもたくさんの細胞があります。

この中から「がん細胞」や「怪しい細胞」がないか隅から隅まで観察します。細胞検査士が判定を行いますが、悪性の疑いがある場合などは病理医が最終診断を行います。全標本を二人で観察（ダブルチェック）し、見落としをなくすための取り組みも行っています。



▲顕微鏡で見た細胞像

細胞検査士は、「がん」の早期発見と正確な診断に役立つことで、「がん」で亡くなる人が一人でも少なくなることに貢献できることを願って仕事をしています。